



すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

KEIO
UNIVERSITY
HOSPITAL
.....
Communication
Magazine

Vol.02
Summer 2017

ご自由に
お持ちください



チームで支える優しい医療

患者さんに向き合っているのは、医師や看護師だけではなく。
薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、ソーシャル
ワーカーなどの医療スタッフや、受付・会計といった事務スタッ
フなど、すべての職員が力を合わせて患者さんを支えています。

100
since 1917
Keio University School of Medicine
医学部開設100年記念

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える
福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

“支える仕組み”の進化をめざして



副病院長／患者総合相談部長
三村 將

来院される患者さんのなかには不安を抱えていらっしゃる方もおられます。その不安を誰に質問して良いかさえわからないという方も、少なくないと思います。そこで慶應病院では、定期的なカンファレンス（会議）などを利用して診療科の壁を越えた様々な職種のメンバーが情報を共有しながら患者さんを支える仕組みを構築しています。

例えば、臨床検査技師に食事のことについてご相談されても、その内容はしっかりと栄養士に伝わるようになっていきます。ですから患者さんは「この質問は、担当が違うのでは」と思わず、どのスタッフにどんなことでも質問してください。遠慮は無用です。

もちろん患者さんを支える体制に、これで十分という上限はありません。先進的医療の提供に取り組むと同時に、地域との連携も強化して他院も含めたチーム医療も推進していくなど、さらに先をめざしていきたいと考えています。



精神・神経科 医師
藤澤 大介

ソーシャルワーカー
上田 裕美

精神科リエゾンチーム

精神看護専門看護師
木村 範子

河野 佐代子

患者さん・ご家族のために“連携”して支えます

チームで支える 優しい医療

生まれ変わる受付

患者さん一人ひとりに寄り添います

従来の受付は、保険証の確認でお待ちいただき、診察でお待ちいただき、さらに医療費の計算でお待ちいただくという状況で、患者さんに大きな負担をおかけしていました。「診察までの時間を聞いても、“何番目です”としか答えてくれない」「いつ呼ばれるか分からないのでトイレにも行けない」といったお叱りの言葉をいただいていた。

すでに一部の受付では行っていますが、新病院棟では、診療科の受付が到着確認から保険証確認・予約確認・予約変更・医療費の計算まで対応することで患者さんの状況を私たちが十分に把握し、患者さんとして向き合っサービスができるよう生まれ変わります。また、診療の進行を確認しながら「先に他の用を済ませていただいて大丈夫ですよ」「お呼びするまで時間がありますので、お手洗いにいかれても大丈夫ですよ」と案内ができるように



します。

治療については、お答えすることはできませんが、私たちが患者さんのお声をうかがって、医療スタッフに伝えることはできます。気になることがありましたらご遠慮なくお声かけください。

患者さん・ご家族を
チームで見守ります

病気は、からだだけでなく、心にも負担をもたらします。そういった、からだの病気に伴う心の問題へのケアを専門とするのが精神科リエゾンチームです。リエゾンとは「連携」という意味の言葉です。同チームは、医師、看護師、ソーシャルワーカーで構成され、その言葉の通り、院内のさまざまな部門と連携しながら、年間1,000名以上の患者さんやご家族をサポートさせていただいています。

同チームが扱う問題は、病気にまつわる不安、からだに負担がかかっているときに起こる「せん妄」（手術後などに起こる意識の混乱で、多くは一時的な症状です）、「認知症」を伴う方への入院から退院までのフォローなど、多岐にわたります。心の安定は、からだの治療を滞りなく安全に進める上でも大切です。からだの治療効果を最大限高めるよう、主治医チームを側面から「黒子」のように支えます。

予防から
退院後の安心まで

予防も私たちの大きな仕事です。患者さんが入院された時点から、入院中に起こりうる問題を予測して、ケアを開始することもあります。また、退院後の生活（家庭生活や仕事など）を見据えて、入院の比較的早い時点から、ソーシャルワーカーなどが中心となって退院後のプランについてご相談に応じています。

このようなケアは、主治医や病棟看護チームが前面に立つて行うことはもちろんですが、そういった主治医チームの背後で、リエゾンチームをはじめとする多くのスタッフが尽力しています。

慶應病院には、精神科リエゾンチームの他に「栄養サポートチーム」「緩和ケアチーム」「高齢者認知障害サポートチーム」など、さまざまなチームが、患者さんの生活全般に相談のれるよう活動しています。私たち全員で患者さんがより安寧にお過ごしいただけるよう、案内役を務めさせていただきます。

無料検診から 最先端治療まで

〈大学病院との上手な付き合い方〉

地域の人々の身近な存在であるために
病気を理解する市民講座と無料検診を開催

高度先進医療を担う役割のある大学病院には、難病や大きな病気にかからない限り関わることはな
いと思っている方も多いことでは
う。しかし、大学病院には普段か
ら地域の方々に気軽に利用してい
ただける機会があります。

例えば、さまざまな病気を理解
するための市民健康講座や無料の
検診もその一つです。慶應病院で
も、2013年から前立腺がんの早
期発見、適性治療をめざす「PS
Aスクリーニングキャンペーン」を開
催しています。

※PSAとは、前立腺特異抗原のことです。

男性は前立腺がんが1位
50歳を過ぎたら検診を

近年、わが国の前立腺がんは中
高年男性に急増しており、患者数、
死亡者数ともに増え続け、日本人
の男性がかかるがんの中で最も多
いがんになりました。しかし、初期
の段階では症状が出ないため、多く
の方が見過ごしがちです。幸い、前
立腺がんの場合は採血によるPSA
検査で早期発見が可能です。しか
も、発見が早ければ早いほど、根治
できるチャンスがあります。そこで、
男性には50歳を過ぎたら年に1度



は前立腺がんの検診を受けていた
だくことをおすすめしています。

早期発見であれば
最新技術で根治も可能

前立腺がんは診断時にすぐには治

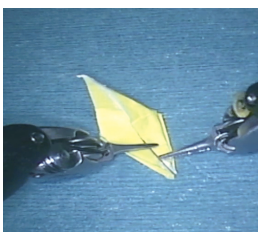
療の必要が無い極めて早期のものか
ら、既に骨に転移し治療が困難なも
のまで、患者さん一人ひとりの病態
が異なります。しかし、早期発見で
あれば、最新機種「ダヴィンチXi」
によるロボット支援手術で前立腺が
んを乗り越えることができます。

この手術の特長は、出血を抑え、
輸血の必要性が低く、術後の痛みが
少ないことです。尿失禁や勃起障害

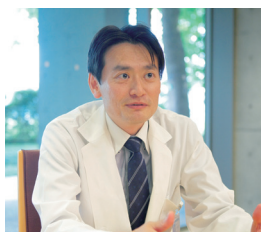
といった手術に伴う後遺症を軽減で
き、術後のダメージが少ないためほ
とんどの方は一週間以内での退院が
可能です。何よりも、精度の高い手
術ができることで、根治性の向上に
つながるものと期待されています。

地域への貢献もめざす慶應病院で
は、今年も9月に第5回「PSAス
クリーニングキャンペーン」を開催し、
前立腺がんについての講演と無料検
診を行います。この機会にご夫婦や
友人同士で気軽に参加していただ
き、当院をより身近な存在に感じて
いただければ幸いです。

(巻末に2017年のキャンペーン案内を掲載)



折り紙の鶴を折れるほど
器用なダヴィンチXi



泌尿器科・医師
小坂威雄



泌尿器科・医師
松本一宏



ダヴィンチXiを使用した手術の様子

医療・健康について
やさしく紹介する情報サイト

KOMPAS

<http://kompas.hosp.keio.ac.jp>

慶應コンパス

検索

「KOMPAS」は慶應病院の医師、医療専門
家によるオリジナルコンテンツ約750件から
なる医療・健康情報ウェブサイトです。



スマートフォン画面

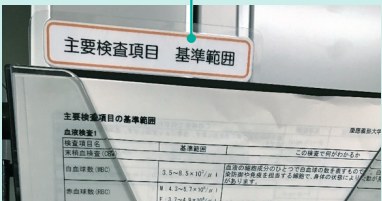
ダヴィンチXi

KOMPAS「あたらしい医療」2016
年「最新ロボット(ダヴィンチXi)
を用いた腹腔鏡下前立腺全摘術
—泌尿器科—」ではダヴィンチXiの
手術テクニックを紹介した動画をご覧
いただけます。

前立腺特異抗原(PSA)

前立腺がんの時に大量のPSAが血
液中に流出します。「健康情報ひろば」
のパンフレットケース(写真)にお持
ち帰りいただける「主要検査項目の
基準範囲」をご用意しています。こ
の項目一覧中、血液検査2に「PSA」
の説明があります。さらに詳しくは書
棚の図書をご利用ください。

「主要検査項目の基準範囲」
をお持ち帰りできます。
KOMPAS専用パソコンでも
閲覧できます。



患者さんの普段の生活までも

心不全で初めて受診される患者さんの心は、「これからどうなるのだろう」と不安でいっぱいです。中には、心不全ということが理解できず「かかりつけのお医者さんに紹介されたから来ただけなのに」と、状況を受け入れられない方も少なくありません。

そのようなときは、心配なこと、不安なことどんなことでもけっこのうです。慢性心不全看護認定看護師にお話してください。認定看護師とは、専門資格を有する特定の領域に詳しいスペシャリストのことです。多くの方々の症状をみてきていますので、患者さん一人ひとりの病状をみながらじっくりお話をうかがい寄り添うことができます。ご遠慮なくどのようなことでもお話しください。

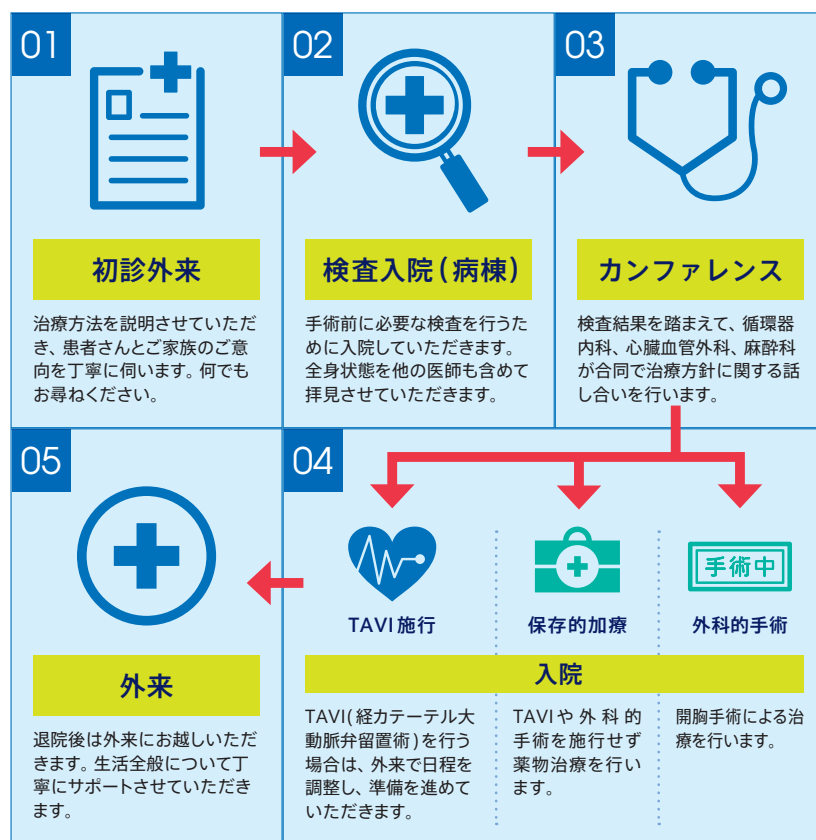
心不全は、病院の中だけで治せる病気ではありません。普段の生活そのものを見直してうまく付き合っ

ていくことが大切で、生活を管理することで悪化することを防ぐこともできます。それは決して簡単なことではないです。それは決して簡単なことではないです。これもダメという生活には不安を感じることでしょう。私たちは患者さんのお考えや生活を詳しくうかがい、「まず、これだけは」という目標を一つ決めて、できるところから始めましょう」とアドバイスさせていただきます。ご家族には退院後、心不全症状がでないか、見守っていただくようご協力をお願いしています。

患者さんの笑顔のために

私たちは、大動脈弁狭窄症でTAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）治療を希望される患者さん全員と最初にじっくり話をさせていただきます。そこで聞かせていただいたことは関連する部署で共有し、治療がスムーズに進むように治療の補足説明やご自宅で注意していただきたいことを話します。治療

当院におけるTAVIの初診外来からの流れ



中はどうなても気持ちが落ち込むものですが、それが高じて抑うつ状態になることも珍しくありません。事前に患者さんのことをチームとして詳しく知っておくことで、スタッフがすぐに声をかけ精神的サポートを行うことができます。

医師にはなかなか話しづらいこともあるかと思いますが、心不全に関すること以外でもかまいませんので、気になることは何でもご相談いただければと思います。

退院後の生活コントロールがうまくいっている患者さんが外来で「仕事に復帰できました」「旅行に行っ

てくることができました」と私たちに話しかけてくださることがよくあります。そのときの満面の笑みを拝見すると本当に嬉しくなります。

そんな笑顔を見たいから、不安も喜びも、いつでも患者さんと一緒に分かち合いたい。それが私たち看護師の想いです。



看護専門領域担当師長
片岡 美樹

かけはし

患者さんの生活を支える 看護師の活動

最近、複数の病気を抱えて生活する方も多くなりました。当院に通う患者さんも外来で治療を続ける方が多くいらっしゃいます。そうした患者さんやご家族が望まれる生活を継続できるように看護師は「看護相談」を行っています。看護相談では療養生活の中で生じた不安や、医師からすすめられた治療を行うかどうかの悩み、治療に必要な技術習得への支援、患者さんのニーズに合わせた相談を行います。退院後も安心して療養が続けられるように、退院支援を専門とする看護師やソーシャルワーカーと連携した支援も行います。

当院にはがん、糖尿病、心不全、腎不全、皮膚や排泄、重症集中、精神のケア、小児、老人へのケアなど様々な専門分野の看護師がおり、患者さんのニーズに応じた支援活動をしています。専門の看護師達は定期的な話し合いを行い、患者さんが望む医療提供には医療者の間でどのような連携が必要かを検討しながら、医療チームの活動につなげる架け橋の役割を担います。看護師への相談をご希望の場合は、いつでも外来スタッフへお声かけください。



看護専門領域担当師長
片岡 美樹

Q 外来で看護師さんに相談したい時はどのようにしたらよいですか？

A 通院中の方は、受診している診療科の看護師にお声かけください。時間の調整をさせていただきます。慶應病院に受診したことのない方は、「総合相談窓口」にご相談ください。

Q 11階のレストランで、11時の開店前に皆並んで待っています。

A 店舗前に椅子をご用意しました。おかけになってお待ちください。

Q 自転車で来院すると、警備員の方から、「病院にご用ですか？」と聞かれることがありますが、どうしてですか？

A 病院を利用される方が優先的に自転車を止められるよう、声をかけさせていただいています。ご不快にならぬよう警備員の対応に違いがないようにいたします。



Information

「患者サロン」開催

患者サロンは、がん患者さんご家族、ご友人を対象としたセミナーや交流会を定期的に開催しています。どなたでも、ご参加いただけます。
(参加費・無料)

開催日	テーマ	講演	交流会	時間
9月5日 (火)	がん化学療法と副作用	○	○	午後2時00分～ 午後4時00分
10月13日 (金)	女性のつどい ～患者同士、語り合おう～		○	午後1時00分～ 午後2時30分
11月16日 (木)	がんと栄養 ～がんに負けない体づくり～	○	○	午後2時00分～ 午後4時00分

お申し込み・
お問い合わせ

がん相談支援センター
03-5363-3285(直通)

「PSAスクリーニングキャンペーン」第5回

前立腺がんは血液検査による腫瘍マーカーPSAにより早期発見が可能です。当院では泌尿器科が中心となって前立腺がんの早期発見、適正治療をめざすために、「PSAスクリーニングキャンペーン」を2013年より開始しました。本年は以下の日程で開催いたします。

- 開催日:9月24日(日)午前
- 会場:北里講堂(慶應義塾大学医学部 北里記念医学図書館2階)
- 内容:公開講座・問診および採血検査

※定員制のため、事前のご予約が必要です。

※詳細につきましては、8月上旬に当院HPに掲載させていただきます。

お問い合わせ

医療連携推進部(PSAスクリーニングキャンペーン事務局)
03-5363-3877(直通)

「採血室」の待ち時間短縮の取り組みについて



- 採血室では受付方法などが変更され、また待ち時間も短くなったと聞きました。どのような改善をしましたか。
- 自動受付機を導入し、電光掲示板表示で入場のご案内ができるようになりました。また、お待たせしないために採血台の数も増設いたしました。
- 患者さんをお願いしたいことはありますか。
- 採血整理券と、来院受付票または診療スケジュール票をお手元にご用意の上お待ちください。採血する腕を肘上まで出してご準備いただくことスムーズに採血ができます。
- 新病院棟ではさらに何か改善されますか。
- 新しい採血室になりますので、今後さらに待ち時間を短く、混雑を緩和する対策を進めていきます。

〈受付時間・休診日〉

外来受付時間 午前8時40分～午前11時00分

面会時間 (平日) 午後3時00分～午後7時00分
(土・休日) 午後1時00分～午後7時00分

休診日 日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 /
年末年始(12月30日～1月4日) / 慶應義塾の休日(1月10日、4月23日)

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

